

文化の森には、生活体験館・通称「まゆの家」という養蚕を営んだ民家を復元した施設があります。もともになった建物は明治40年ごろ、蜂屋村にあった村長さんのお宅です。大正期には深田村に移築され、その後、中富町に移りました。場所が変わるたびに住人も代わりました。

昭和30年代ごろまでの養蚕は「^{ざしきがい}座敷飼」とよばれる普段は人が生活する部屋で、蚕を飼育するものでした。ナンド、ナカノマ、アガリハナといったすべての部屋の畳を上げて、蚕を飼うための目棚を作り付けました。飼育の間、家族は西日の入るオクマや縁側で寝食をしました。天井にある煙抜きの障子や床下のいろり状の暖炉設備など、蚕を飼うための工夫が見られます。

また、クドのあるオカッテや掃き出し口のある縁側など、懐かしい民家の姿が見られます。